

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	環境保護・保全活動

●目指す姿

- 市民・事業者・行政が一体となり、環境保護・保全活動に取り組むための「情報発信」や「活動の実践」のための体制が整備されています。
- 次代を担う子どもたちに、環境保護・保全、生物多様性について学ぶ場が提供され、子どもを軸に家族が環境について考えるきっかけを持ち、それが実際の活動につながっています。

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
（主）日常生活において、環境問題を意識している市民の割合	78.4%	-	79.3%				UP	環境政策課
（客）環境教室などへの参加者数（年間）	2,800人	2,732人	2,965人				3,000人	環境政策課

●施策の方向性①環境保護・保全活動の推進

事業番号	31101	事業名	環境保護・保全推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	市民が身近にある環境や自然に目を向け、環境問題への認識を深めるための情報提供や、市民や事業所が主体的に環境保護・保全活動に取り組むことができるよう支援を行う。			担当課評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 環境美化監視員、まちピカ応援隊などと連携して環境保護・保全に努めた。また、産業・農業祭などのイベントを利用した啓発活動を実施した。広報紙による啓発なども実施しており、昨年度実施した市民アンケートからも、市民の環境保護・保全の意識の高まりが感じられる。</p> <p>【課題】 平成29年度よりまちピカ応援隊がパークレンジャーに統合されるため、今後の活動支援が課題となる。</p> <p>【対策】 まちピカ応援隊が統合されたパークレンジャーに対して、環境美化活動への協力を呼びかける。また、まちピカ応援隊員と重複していないパークレンジャーの方に対して環境美化監視員との連携を図っていく。</p>				

●施策の方向性②環境教育の充実

事業番号	31201	事業名	環境学習事業	担当課	環境政策課
事業概要	環境保護・保全に対する意識の向上を図るため、次世代を担う子どもたちが、環境や自然の大切さを遊びや学習を通じて学ぶ機会を増やすなど、市民が環境について学べる場を充実させる。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 平成27年度と比較し、環境教室への参加者を10パーセント以上増加させることができた。</p> <p>【課題】 子ども環境教室では、前年度よりも参加者が減少してしまった教室があり、募集方法を工夫する必要がある。</p> <p>【対策】 教室の内容を分かりやすくPRし、子どもたちが参加したくなるように内容を充実させ、より魅力的な教室を開催する。</p>				

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	循環型社会

●目指す姿

<p>●リデュース・リユース・リサイクル（3R）をこころがけ、ごみを減らす暮らしを実践する循環型社会が実現されています。</p> <p>●リユースやリサイクルできないごみが継続的・安定的に適正処理され、快適な市民生活が維持されています。</p>
--

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
（主）ごみを確実に分別し、排出している市民の割合	93.7%	-	93.9%				UP	環境政策課
（客）リサイクル率（年間）	29.9%	30.2%	28.4%				30.0%	環境政策課
（客）一人一日当たりのごみ排出量	957 g	963 g	922 g				890 g	環境政策課

●施策の方向性①循環型社会の形成

事業番号	32101	事業名	リサイクル・再資源化事業	担当課	環境政策課
事業概要	廃棄物の減量と資源の有効活用を図るため、家庭等から排出される再生利用可能なごみの再資源化を推進する。			担当課評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】                      緑ごみの拠点回収とその再資源化を実施。                      資源回収を実施した団体へ実績に応じた奨励金を交付。                      雑がみ回収を推進するため、広報紙や自治会回覧で啓発を実施しているが、民間の古紙回収ステーションも大幅に増加しており、多くが24時間搬入可能なため利用者が増加。</p> <p>【課題】                      H28年度は、廃棄物の排出量の減少はよかったが、リサイクル率の減少について、民間の古紙回収ステーションの普及により、地元やPTA等で実施の古紙回収量が大きく減少した。排出量・リサイクル量ともに集計値を下げた要因と考えられる。</p> <p>【対策】                      生ごみの水切りや食品ロス削減の啓発活動を今後も実施し、広く市民に周知することにより廃棄物の減量を図る。雑がみ等資源回収についても啓発を継続し、リサイクル率の向上を図る。</p>				

●施策の方向性②適正な廃棄物の処理

事業番号	32201	事業名	一般廃棄物収集運搬事業	担当課	環境政策課
事業概要	一般廃棄物の適正処理を図るため、家庭からごみステーションに排出される可燃ごみや不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 家庭から排出される可燃ごみや不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬。分別ルールが守られていないごみについては、啓発のため、回収せずごみステーションに残しているが、可燃ごみについては、衛生上の観点から、その日の内に回収するよう努めている。</p> <p>【課題】 分別ルール違反品がごみステーションへ出されている。</p> <p>【対策】 今後もルール違反品については、啓発のため、回収せずごみステーションに残し、排出者がわかる場合は、文書等で指導を行う。 また、ゴミ出しガイドブックをPDFでHPに掲載したことや、ごみ出し分別一覧(50音順)も以前より詳細に変更したため、さらに啓発していく。</p>				

事業番号	32202	事業名	北清掃センター施設維持補修事業	担当課	北清掃センター
事業概要	北清掃センターの適切な維持を図るため、必要なメンテナンスを行い、周辺環境に配慮した施設の維持管理に万全を期する。 法等に基づいた適切な維持管理による、施設の安定操業・安全を確保する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 ごみ焼却施設を適切に維持するために、法令に基づく点検管理と保守運営を図り、長期にわたり安定して操業できるよう計画的な機器類の修繕を行っている。</p> <p>【課題】 焼却施設の寿命は20～25年程度といわれており、稼動から15年が経過した当該施設も今後、設備の故障や不具合が増えていくと予想されるため、大幅な更新工事が必要な時期に来ている。当該施設の延命化を図るために、更新が必要な設備の選定と事業費の把握を行う必要がある。</p> <p>【対策】 延命化を図るための基本計画を当施設の施工業者及び外部のコンサルタントを交え、29年度に策定する。また、多大な事業費に係る市の負担分を軽減するため環境省補助を活用し、財源確保に努める。</p>				

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	生活環境

●目指す姿

- 地球温暖化に対し、市民、事業者、行政が一体となり、日々の生活や事業活動において、温室効果ガスの削減に向けて取り組んでいます。
- 本市唯一の水道水源である地下水が安定的に確保され、水質も保全されています。
- 生活排水による河川などへの汚濁負荷が軽減され、快適で衛生的な生活環境が保たれています。
- 特定外来生物が駆除され、地域の生態系が保たれています。

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
(主) 家庭でできるCO <sub>2</sub> 削減に積極的に取り組んでいる市民の割合	67.5%	-	68.2%				UP	環境政策課
(客) 汚水衛生処理率	84.4%	87.6%	89.1%				91.1%	環境政策課

●施策の方向性①地球温暖化防止対策の推進

事業番号	33101	事業名	地球温暖化防止推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	異常気象の増加など、地球温暖化は、私たちの身近な生活に悪影響を及ぼしていると言われる。本市では、H25年度に「第2次各務原市地球温暖化対策地域推進計画」策定し、市民・事業所が、この計画に基づいた温室効果ガスの削減に取り組むため、意識啓発を行う。			担当課 評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 従来の啓発活動に加え、県が作成した地球温暖化防止の啓発チラシもイベントで配布したり、県が主催する地球温暖化防止啓発事業を市内で実施した。</p> <p>【課題】 家庭でできるCO<sub>2</sub>削減に取り組む市民の割合は上昇しているが、実情を把握することは困難である。</p> <p>【対策】 第2次環境基本計画策定のために実施した市民アンケートなどを参考に、地球温暖化防止に関するより分かりやすい啓発を実施する。</p>				

●施策の方向性②地下水の保全・管理

事業番号	33201	事業名	地下水保全事業	担当課	環境政策課
事業概要	本市の地下水は、水道水をはじめ、工業用水などで利用されている。その貴重な資源である地下水の保全するため、水位と水質の監視を行う。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 地下水の水質について年2回、97箇所測定し、硝酸態窒素汚染区域が拡大していないことを、水位についても年2回、126箇所測定し、水位を維持していることを確認した。</p> <p>【課題】 硝酸態窒素汚染はすぐに解決できないため、長期にわたり経過観察が必要となる。</p> <p>【対策】 引き続き、地下水の水質と水位の測定を定期的実施することで、いち早く地下水の異常を発見し、適切な対応ができるように努める。</p>				

●施策の方向性③生活排水対策の推進

事業番号	33301	事業名	水質汚濁防止推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	生活系排水による河川の水質汚濁を防止し、生活環境の保全を図るために、浄化槽の設置費用の一部を補助し、浄化槽の設置整備を推進する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 下水道の整備に伴い、浄化槽補助対象区域が減少し、補助件数は減少傾向となっている。単独浄化槽撤去費用の補助については、従来の広報紙によるPRのほか、平成28年度は制度対象区域となる自治会の回覧を利用し、PRを行った。補助件数は、平成27年度が4件に対し、平成28年度は6件と少しずつ増加している。</p> <p>【課題】 7年以内に下水道の整備予定のない区域を補助対象として、既存住宅の排水水質改善を目指すものであるが、自己負担を伴うことから、建て替え時に活用されるケースが殆どとなっている。</p> <p>【対策】 浄化槽補助金制度について、広報紙によるPR、自治会回覧を利用したPRなど効果的に事業のPRを進めていく。</p>				

事業番号	33302	事業名	し尿処理施設維持補修事業	担当課	クリーンセンター
事業概要	老朽化した施設を維持し安定的に稼働させるため効率的な維持補修を行う。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 老朽化した施設を維持し安定的に稼働させるために計画的に維持補修を行なっているほか、職員の点検等によって老朽箇所の早期発見に努めている。</p> <p>【課題】 老朽化等が起因による故障が生じた場合、施設を停止し故障の復旧に努めなければならない、故障箇所によってはし尿・浄化槽汚泥の搬入を止めなければならない市民生活に支障をきたす可能性がある。</p> <p>【対策】 職員による点検等による、老朽化した設備・機器を早期発見し修繕を行なうことによって適切に施設の運転管理に努める。またクリーンセンター機能検査等の結果を参考に施設全体の効率的な修繕計画を立案・実行し安定的な施設管理を行なう。</p>				

事業番号	33303	事業名	し尿処理施設改修事業	担当課	クリーンセンター
事業概要	老朽化した施設について、処理体系の見直しを含め、効率的な改修を実施する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】 施設の老朽化が進んでおり、平成30年度の改修に向けて施設改修基本計画・施設長寿命化計画の策定と生活影響調査を実施し、改修内容の検討を行っている。</p> <p>【課題】 浄化槽の普及に伴う、受入し尿の性状の変化により、現在の設備では脱水・固化の処理が困難になってきており、現在の性状に合わせた最適な処理方法への早急な対応が必要となっている。</p> <p>【対策】 改修の実施に向け策定した計画に基づき、処理工程の見直しや、焼却から搬出への変更など、経済的かつ効率的な処理施設の構築を検討のうえ、改修工事の仕様書を作成する。</p>				

●施策の方向性④特定外来生物の駆除と生物多様性の保全

事業番号	33401	事業名	特定外来生物対策事業	担当課	環境政策課
事業概要	特定外来生物による被害を防止するため、市民や関係機関と連携し、生息地域の拡大防止や駆除を実施する。特に、アルゼンチンアリについては、一斉防除等を実施し、アリの個体数の減少と生息範囲の拡大防止を図る。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状分析・課題・対策	<p>【現状】                      特定外来生物であるアルゼンチンアリについて、自治会と協働して防除活動を行っている。</p> <p>【課題】                      鵜沼東部地区については、アルゼンチンアリの個体数の減少を図ることはできたが、生息範囲は少しずつ拡大している。緑苑地区については、県の森林環境基金事業を活用し、アリの絶滅を目指して防除活動に取り組んでいる。</p> <p>【対策】                      生息区域拡大防止のために、自治会、木曾川上流河川事務所などの関係者と引き続き連携し防除に取り組む。</p>				

